

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和4年11月18日（金）

13：30～14：55

場 所：佐久市役所 7階 703会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議 委員9名（欠席1名）

事務局（広報広聴課長・広報広聴課職員）2名

市民活動サポートセンター センター長

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議事項

（1）佐久市市民活動サポートセンター事業中間報告について

ア 佐久市市民活動サポートセンター「さくさぼ」

運営受託団体：長野県NPOセンター

栗津センター長よりR4前半の実績や今後の取組について説明

イ 意見交換

会長：2点ほどお聞きしたいのですが、まず1点目として、相談や問い合わせについて、4月から10月末までの相談件数が65件になっていますけど、内容としては、傾向や分類はありましたか。どんな相談があったか教えていただきたいと思います。

センター長：傾向ということでまとめてお話しするのがなかなかちょっと難しいかもれないですけど、具体的などころでご紹介させていただきますと、例えば小学校のしめ縄の授業をしたいからしめ縄をつくれる人はいませんか、というようなご相談をいただいたり。あとは、区の防災訓練をやる時にどんなことをしたらいいかという相談をいただくこともありますし。ほかには、コロナ禍なので、オンラインでなにか会議をやってみたいんだけどもやり方がわからないので、ちょっとサポートして欲しい、というような相談をいただいたり。ほんの一部ですがご紹介しました。

会長：それではもう一点。今のお話で、市民の皆さんが非常に色々な取組や活動をされているのがよくわかったんですけど、なかなかこういう協働に関わっていない、あるいは関心のない市民住民からすると、そういう協働に関することがわからない。資料でお配りいただいた、機関紙「さくさぼ」や催しのチラシを作成されても、申し訳ないんですけど私は初めて拝見したので、市役所に置いてあるんでしょうけど、なかなかこういうのって目に触れないような気がするんですね。例えば各区を通して回覧板をまわすとか、ああいったところに入れられないんでしょうか。「さくさぼ」が回覧板に入っている

のを見たことがないです。

委員：全戸に配られていますよ。

会長：私のところに来ないということでしょうか。

センター長：ご意見ありがとうございます。周知というところではご指摘のとおりでして、関心のある方には関心を持っていただけるんですけども、どうやって情報を届けるか本当に試行錯誤しているところではあります。機関紙は全戸配布という形でお届けしているんですけど、お届けしても埋もれちゃって見てもらえない、開いてもらえないところもあつたりします。チラシも各公民館、図書館には配布させて頂いたりですか、いいですよと言っていたところはスーパーにも置かせてもらったりしています。地道な努力を重ねているところではありますが、ぜひそのあたりも含めて引き続きアドバイスいただければなど。イベントの紹介は、メールと LINE の組み合わせと、紙媒体と、常に双方で情報発信しております。さくさぼの LINE アカウントというのを作っていて、これにお友達登録していただくとイベント情報が LINE で受け取れるというように、いろいろ試しているところではあります。課題だとは認識しております。

会長：わかりました。

委員：「さくさぼ」も LINE で読めたらいいですね。うちは、別荘地なので全戸配布物がとどかない地区でして。LINE で PDF で拝見させていただけるとありがたいです。

委員：佐久市の LINE できましたよね。

事務局：公式 LINE で、広報紙などを発行すると、「広報 11 月号を発行しました」というようなお知らせをしております。

会長：LINE やホームページだと、現物は見れないのですか。

事務局：現物は市役所や支所などに置いてあります。ネット上では佐久市の本棚という電子ブック専門のサイトがあります。

事務局：インターネットでも、QR コードを読み込むと見られます。

センター長：関心がない方にどう関心を持っていただくかというところでは、先ほどセンターの事業報告の最後にご紹介しました、地域防災マップ事業やまるごとキャンパス事業もひとつのきっかけになっています。市民活動サポートセンターの運営業務でやることは、どうしても市民活動に興味がある方しか関心を持ってもらえない。そこでちょっと「学生」が、とか、ちょっと「防災」がとキーワードが入ってくると、市民活動では引っかからない、関心を持ってもらえない層にも、あっこんなことをやっている人がいるんだな、と少し認知していただける。相乗効果があると申し上げたのはこのように、関心を持っていただける入り口、きっかけにはなっているのかなと思っています。

委員：私の区は、さくさぼとすぐ近いのでしょっちゅう印刷などで利用させてもらっています。その中で、私の悩みをつぶやいていたんですね。そういう話を拾ってくれて、例えば、小規模多機能自治の講座なんかにか声をかけてもらって、話を聞くと、うちの区の悩みなんて、全国の悩みと比べたら、やはり全然違うんです。これはもうちょっと腰を据えてやらないといけないなと思いました。それから、さくさぼ主催の区長おしゃべり会では、うちの区へ女性の役員が入ってきてくれて、時代が変化していてこっちもなにか

バージョンアップしないといけないということで取り組んでいることを話したりしました。今度は、男女共同参画事業の優良事例として、推薦をもらって、そういう事例を発表してもらえば地区が活性化するんじゃないかということで、今度の日曜日、男女共同参画フェスティバルで表彰されることになってしまっただけで、とても、こんなはずじゃなくて、それは頑張っている女性役員さんがもらった賞だから、私だけでできたことではないし、とはいえ、それがほかの区でも刺激になればと思って、参加してきます。そんな形で、私はさくさぼから様々なサポートを受けていました。

センター長：こちらこそいつもありがとうございます。地域のみなさんと、信頼関係ですとか、そういった温度感のある関係性を佐久市内でどれだけ作っていかれるかということを考えながら取り組んでまいります。引き続き、よろしく願いいたします。

委員：提案なんですけれど、さっき回覧板の話がちらっとでたと思うんですが。私は 80 歳を越えています。インターネットを見ろ、スマホを見ろというのは大変なことなんですよね。見ないわけじゃない。いちいち開くのが大変なんです、私の区では回覧版というのは重視されている節がある。というのは、例えば一つの区に 20 世帯あると回覧板が回るのに 3 週間もかかっちゃうんです。これをどうにかしろということで会合で区の役員が意見を出している。そのくらい私の区では、回覧板は目を通している。で、ここから提案なんですけど、今日渡されたチラシのようなものを、それを毎度毎度、回覧板というのは無理なので、年間行事の中でこれは市民に参加してもらいたいという年 2 回ぐらい回覧板で、大勢の市民の皆さん参加をお待ちしています、と添えて出すのはどうだろうか。結構、私の区では情報が行き届くのではないかと考えて提案させていただきました。

センター長：今後の予定という形では、現行の「さくさぼ」にも掲載しておりますが、この形だと、なかなか見てもらえないでしょうか。

委員：私は見るんですがね。いろんなものと全戸配布になっていると、読まずに飛ばされることもあるかもしれませんね。

センター長：どのような形で情報を届けるか、今後も検討していきたいと思います。アドバイスいただいております。

委員：行政の他部署との連携が大変進んできていて、すばらしいなと思って見ていたんですけど、市民側としてはうまく連携していたから充実度、満足度が高いんです。逆に、行政側の課題の意見ってどんな意見なんですかね。連携したことによってどんな声が上がってきているのかちょっと気になります。

事務局：去年あたりから、いろんなところで、例えばゴミの説明会ができなくて困っているんだよとさくさぼに相談したら、面白い動画をつくって見てもらえば、とサポートしてもらったりとか。ほかにも、ワークショップやりたいけど、どうやったらいいとか、情報発信を手伝ってもらえないとか、そういうことを担当課では庁内で、さくさぼを使ってね、というのをこっちから強くお願いした覚えはないのですが、急に増えてきたなという実感がありますね。実際にコラボレーションしているいろいろやってみてというので相談してみてよかったよというのもあったりとか、逆にあまりスムーズにいか

いというところもあったりとか。でも確実にいろいろな課のところ、こういうことができるかも、というのがわかってもらえる人が増えてきた気はします。

センター長：100%うまくいくわけではありませんので。市役所の各課へ、コミュニケーションを図るときも広報広聴課さんにお力添えいただいでいて、サポートセンターの役割自体も市役所の中でご理解いただいている方もいれば、なんだっけという感じの方もいらっしゃると思います。地道に少しずつご理解いただいきながら、この関係性を絶やさずに信頼関係を築いていきたいです。

## (2) 意見交換「協働のまちづくりを進めるために」

ア 粟津センター長から意見交換のテーマと話し合いのルールについて説明

イ 2グループに分かれて意見交換

ウ グループごとの意見のまとめ発表、情報共有

グループ1：いつもお世話になっております。佐久青年会議所の金澤です。こちらのテーブルでは、いろんな総括的なところから具体的な問題ってところもあったりとか、いろんな言葉が出て参りました。リーダーが必要ではないかとか、現場の問題を意識する場所が必要ではないか、世代間の共有も必要じゃないかとかいろいろありました。協働のまちづくりを進めていく中でいろんな課題とか問題も出てくると思うんですけど、持続性というのは必要じゃないかという話になりました。かといってじゃあどこをゴールにするのという話の中で、私たちが行きついたのが、そもそも、持続をしてみちづくりを続けていくことがまちづくりのゴールになるんじゃないか、というような結論に至った次第でございます。以上です。

グループ2：事務局の大島です。こちらのテーブルでは、対話の場がないといけないなということとか、お互いの事をよく理解し合えようということですか。情報をアンテナ高く張って知るようにしようとか、結構共通する内容は出てきました。ほかの人の意見を聞くと、今までの固定概念が簡単に覆るよとか、他の人と話すことの重要性ってというのは際立って最初の方に出てきました。「自分は何に困っている」ということを広く伝えないと何も始まらないんじゃないかということで、「困ったことは、困ったと言う」ということはキーワードとして出てきています。今、コロナ禍もあって結構対話の場を作るのが難しいんですけど、家族以外の誰かと話す機会も、意識して持っていくというのは改めて大事ななという意見があがっています。協働するために、移住者の方は新しい考え方を吹き込んでくれたよとか、地元で長く住んでいる人たちは、それなりの考え方があるんだよ、とか、上手くコーディネートできる人がもっと増えてくれるといいなということができてきました。例えば、地域おこし協力隊もいますけれども、地区のミッションだけじゃなくて、空き家に特化したことをやってくれる人がいたらいいなというそんなアイデアも出ています。そんなところで、240区もあると大変だよねという意見も出てはいるんですが、一人ひとりがそういう危機意識をもつことも大事だしと、そのためには一人がいくらぎやーぎやー言ってもわかってもらえなかつたりするので、

みんながお互いを知ろうとか、何が起きているか知ろうという意識をもつことが大事なのかなど、話し合いの中で見えたことです。以上です。

センター長：ありがとうございました。本当に有意義な時間になりました。次の機会には、ほかのセンタースタッフも大勢でお伺いさせていただきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

#### 4 その他

事務局：マイナンバーカード申請についてのお知らせと次回の会議については、必要に応じ決定次第ご連絡する旨を説明。

#### 5 閉会